

本校 令和7年度 山梨県立富士見支援学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	児童生徒たちの病状に配慮し、健康の回復を図りながら、義務教育における学習空白を補完するとともに、社会の中で人と関わりながら生きる力を育む
-----------	--

山梨県立富士見支援学校校長 雨宮 靖子

本年度の重点目標	1 児童生徒一人一人に即した支援や学習指導に努めるとともに、確かな学力を育むとともに、達成感や自己肯定感を育む。
	2 健やかな心身の涵養とよりよい人間関係の形成を図り、社会参加と協働に向けての資質を育む。
	3 病弱教育の充実とセンター的機能の発揮に努める。

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価			
本年度の重点目標		年度末評価(令和8年2月12日現在)	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	児童生徒の実態に即した支援や学習指導を行い、一人一人の確かな学力を育むとともに、達成感や自己肯定感を育む。	児童生徒の実態に合った的確な個別の指導計画を作成する。それに基づいた授業を実施し、基礎的・基本的な知識・技能を定着させながら、指導と評価の一体化を図る。 ICTの活用や体験的活動など、指導法を工夫することにより、わかる喜びを実感できる授業を行い、達成感や自己肯定力を高める。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)
2	健やかな心身の涵養とよりよい人間関係の形成を図り、自立を目指す態度を育成する。	教育課程に児童生徒の心身の状態を考慮した系統的・体系的なキャリア教育を位置づけるとともに、児童生徒指導力の向上を図る。 基本的生活習慣を確立させ自立心の育成に努めるとともに、道徳教育や保健教育と関連させ学校生活全体を通して、自他を大切にすることを育てる。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)
3	病弱教育に関する専門性の充実を図り、信頼される学校づくりを行う。	積極的な情報発信を行い、病弱教育への理解と啓発に努めるとともに、関係機関との連携を充実させる。センター的機能を発揮して、地域の児童生徒を支援するとともに、身体的疾患や心身症を抱える児童生徒に対する支援について理解啓発を図る。 研究・研修の充実を図りながら授業力を高め、専門性の向上を図る。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)
4	全ての教職員が働きやすい学校づくりを目指す。	「All富士見」と「One富士見」をもとに、働き方改革をめざし、効率の良い働き方を行う。また年休を取得しやすい環境を整え、年間15日以上取得できるよう努める。	教職員アンケートによる検証(満足度80%)

学校関係者評価	
実施日(令和8年2月27日)	
評価	意見・要望等
4	<ul style="list-style-type: none"> 教職員が児童生徒の実態把握を丁寧に行い、教育支援ニーズに応じて柔軟に教育活動が実施されている。 不登校の生徒が多い中で、何が子どもたちに必要かという答えはとても難しいものだと思う。富士見支援学校は違う角度での取り組みが可能な場所であり、積極的かつ伝統的な取り組みを続けていてもらいたい。 まれに「この先生のこの教え方が合わない」との声が聞かれた。人と人の関わり合いなので致し方ないと思う。今後のAIおよびICT活用に向けて、情報活用能力の把握やモラル教育等を充実させていくことが課題である。 学習評価については、引き続き前籍校との連携を図る中で、評価の妥当性に関して議論を深めていけるとよいと思う。 学力をつけることからだけでなく、自立活動独自の視点や方法を大事にしながら自己肯定感を育てて欲しいと思う。
4	<ul style="list-style-type: none"> 長く通学しているお子さんと、1年前は参加できなかった行事に参加できたと、成長が目に見えて外でお話を聞いてこちらも嬉しくなります。 自己肯定感の低い子どもたちが自信を回復し、健やかな心身を取り戻し、次のステップへ進める準備を整えることができていると思う。 児童生徒にとって、学校が安心できる場所であることがわかる。大人・教職員との信頼関係が築かれている様子が高く評価できる。 少人数であっても同年代との関わりによる成長発達機会が保障されることが望ましい。 保護者との連携に関わり、児童生徒の日々の様子に関する保護者への情報提供の充実に向けた改善が望まれる。 自身の体調に関する自己管理・他者開示は、とても大切なことだと思う。ぜひ、実践を継続して欲しい。
4	<ul style="list-style-type: none"> 「ここにしか通えないお子さん」は、裏を返せば「ここならば通えるお子さん」であるので、そういったお子さんたちを引き続き受け入れてもらいたい。 センター的機能も実績を積み重ね、良い方向に進んでいると思う。各地で困っている学校が積極的に相談できる体制を教育委員会には準備してもらいたいと思う。問題点の認識や機能を広げる試みが素晴らしいと思った。「病弱支援学級担任」支援では、当該校管理職への情報発信や連携をぜひお願いしたい。 病弱教育の理解や校内での学びの様子について、関係機関に積極的に発信されていることが高く評価できる。 心理的不調を来しやすい子どもは、予後不良となる傾向が強いので、追支援はとても大切な業務だと思う。(富士見での楽しかった思い出を、その後の生きる糧とする生徒さんたくさん居る。)引き続き丁寧な支援をお願いしたい。 専門性をぜひ高めてほしい。人が生きていく上での学びは、いろんな時、所に出会いがあると思う。固定してとらず、自由に、好奇心を持って学んでほしいと思います。
3	<ul style="list-style-type: none"> 先生方が健康であることが、お子さんたちが健やかに成長するための必要条件になると思う。 学校の教職員は忙しく、このような取り組みは非常に難しいと思われるが、ぜひ先生方が元気に過ごせる環境を作って欲しい。 今後の改善に向けて、教職員アンケート結果の丁寧な分析と対応が行われることが望ましい。 「学校としての包括的な教育サービスの向上」が図れるよう、時間の管理に偏らない視点(本人の仕事への意欲によっては超過勤務もよしとする等)も大切にしていってほしい。 様々な教員の意見が出しやすく、共有し合える職場であってほしい。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。